

小児の発熱時の対応(4 つのポイント)

point
1

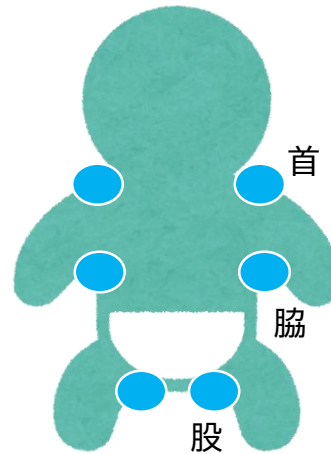
水分補給



- 子供は見えない汗をたくさんかいています。水、お茶、イオン飲料、果汁など少しずつこまめに飲ませましょう。
- 大人用のスポーツドリンクは電解質の濃度が濃いうえに、糖が多めのもので、水分補給には適しません。

point
3

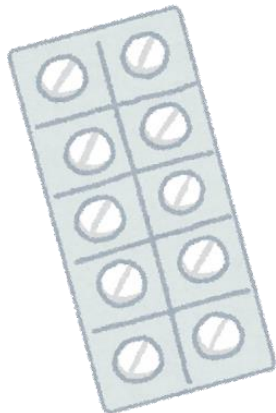
クーリング



- タオルによく冷えた保冷剤を包み、「首・脇・股」に入れます。
- 熱が出てもすぐにクーリングする必要はありません。
- 体温が上がりきって、手足も温かく、顔などが赤く火照ったりなどで全身に体熱感がある時に行いましょう。

point
2

解熱剤



- 熱が高くても元気なら、慌てて使う必要はありません。
- 水分が取れない・眠れないなどの場合に、食後にこだわらずに使いましょう。
- 病院で処方されたものか、薬局で購入する際は「アセトアミノフェン製剤」と伝えてください。

point
4

熱性痙攣



- 呼びかけても反応がない、白目をむく、唇が青ざめる、泡を吐くなどが見られます。
- ほとんどは数分で止まります。スマホで動画を取るなど、様子をメモしましょう。
- 5分を超える場合は、救急車を呼びましょう。